

(陳受20第3号)

食の安全確保のため、膨大な放射能を放出している青森県「六ヶ所再処理工場」の稼働の中止とその閉鎖を求める意見書の提出に関する陳情

受理年月日

平成20年2月20日

陳情者

陳情の要旨

私は六ヶ所再処理工場の本稼働を前にして疑問に思うことがあります。「どうして、皆知らないことを皆知らない間に押し進めていくのだろうか」ということです。六ヶ所村再処理工場から原発1基が放出する1年分の放射能をたった1日で青森の空と三陸の海へと流されることを知ったのは一昨年の7月でした。それから知人に六ヶ所のことを話していますが、現状を認識している人は皆無です。皆、原発と同じレベルでしか認識していません。

放射能の一番の恐ろしさは生態濃縮で体内に取り込まれ、外部被曝ではなく内部被曝することです。体内に入った放射能は肺や胃から血液に運ばれそれぞれの放射性物質の種類によって決まった臓器へ取り込まれます。例えばヨウ素131は甲状腺に集まり、甲状腺障害や甲状腺がんなどを引き起こします。そしてこのヨウ素は空気中、海洋中から植物体内に入り200~1000万倍にも濃縮されることが分かっており、海産物を大量に摂取する日本人はこのヨウ素が甲状腺に蓄積されます。イギリスの再処理工場周辺では小児白血病が10倍にも広がり、海産物は放射能に高度に汚染されています。日本人はイギリス人の10倍もの海産物を摂取しますから（しかも三陸沿岸は日本の海産物生産量1位です。）内部被曝する確率も相当あがることが予想されます。そして、その被害は未来を担う子どもたちを襲います。放射能は若者優先の法則があり子どもは大人の10倍、胎児にいたっては100倍も影響が大きいのです。

なぜこんな事実を隠ぺいしてまで不必要な再処理工場をつくったのか理解ができません。日本国民にしっかりと情報を告示すべきです。そして水俣病やカネミ油症のような悲劇を二度と繰り返すことのないよう、一刻も早く再処理工場の稼働をとめ、工場を閉鎖すべきです。

青森の自然と三陸の海を取り返しのつかない汚染から守るために、日本国民の命を守るために、武蔵野市の子どもたち、これから誕生するかけがえのない命を放射能から守るために、私は下記のとおり要請します。

記

貴議会におかれましては、武蔵野市の食の安全を確保するため、膨大な放射能を放出している青森県「六ヶ所再処理工場」の稼働を一刻も早くとめ、閉鎖することを求める意見書を、内閣総理大臣及び経済産業大臣に提出すること。

